

CHAPTER

04

第4章 将来都市構造

- 4-1 基本的な都市構造
- 4-2 都市づくりの目標の構造化
- 4-3 将来都市構造図
- 4-4 各ゾーンの将来イメージ
- 4-5 各ゾーンの密度イメージ
- 4-6 重点的にまちづくりを展開する地域

4-1 基本的な都市構造

本市がめざす将来都市構造は、以下の基本的な視点に立ち、それらを満たす「集約連携型都市構造」を、基本的な都市構造とします。

(基本的な視点)

① 視点1

ヒト・モノ・カネ・情報の交流を呼び込み、都市の活力を生み出すとともに、将来も持続的に発展していく国際都市として、世界をリードするイノベーションを創出

② 視点2

高齢者をはじめとするさまざまな人が過度に自動車に頼らず自由に移動し活動することができる、歩いて暮らせるまちを構築し、都市の活力を維持向上

③ 視点3

激甚化する自然災害に対応するための災害リスクを考慮した、安心して暮らせる生活圏を形成

④ 視点4

世界規模の環境意識の高まりに応じ、都市活動がもたらす環境負荷を抑制

⑤ 視点5

今後の厳しい財政状況を見据え、道路などの都市基盤や都市施設などを効率的に維持管理

大都市における
— 集約連携型都市構造 —



駅を中心とした歩いて暮らせる圏域（駅そば生活圏）に、商業、業務、住宅、サービスなどの多様な都市機能が適切に配置・連携され、さらに、歴史・文化、環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間づくりがなされているとともに、都心を中心に、圏域の中核都市として交流を活性化させ創造的活動を生み出す空間づくりがなされている都市構造です。

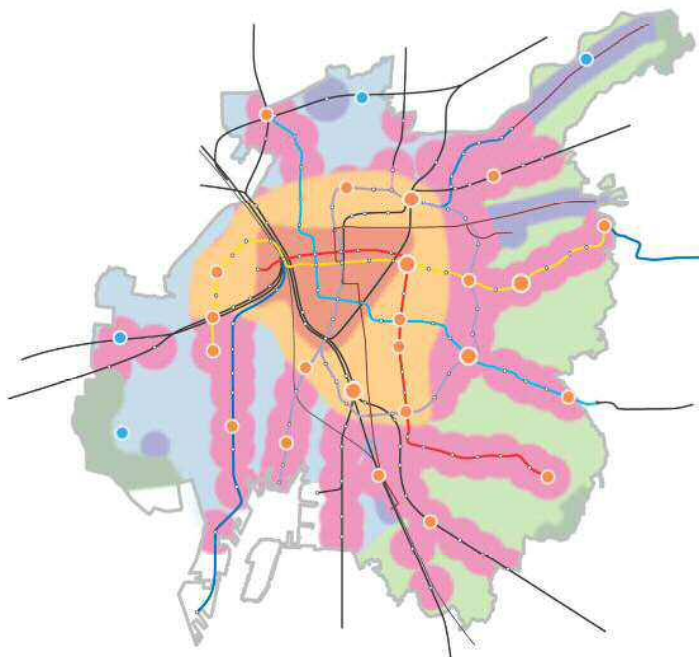
4-2 都市づくりの目標の構造化

都市づくりの目標を、それぞれ空間的に表現して構造化します。

都市づくり
の目標

01

ゆとりと便利が織りなす多様で持続可能な生活空間



多様な都市機能が適切に配置・連携

●人口減少・高齢化を受け、公共交通を軸に居住と都市機能を集約するとともに、地域特性を活かし、価値観やライフスタイルなどの多様性に対応した、包摂性のある都市構造とします。

●大都市ならではの利便性と郊外的なゆとりを維持・向上させ、名古屋ライフスタイルを創造・発展させる空間を形成します。

拠点市街地

魅力があふれにぎわう交流拠点

都心ゾーン

スーパー・メガリージョンのセンターとなる圏域の中枢

地域拠点

都心ゾーンを補完する市内各地域の中心地

駅そば市街地

快適で利便性の高い居住環境

都心周辺ゾーン

都心との近傍性を活かした、古い市街地の再生

駅そばゾーン

駅周辺の日常生活を支える都市機能の向上

準駅そばゾーン

利便性の高い住宅地の維持

郊外市街地

「ゆとり」と「うるおい」がある居住環境

西部郊外ゾーン

多様な機能が調和した生活環境の形成

東部郊外ゾーン

ゆとりとうるおいのある生活環境の形成

その他のゾーン

自然共生ゾーン

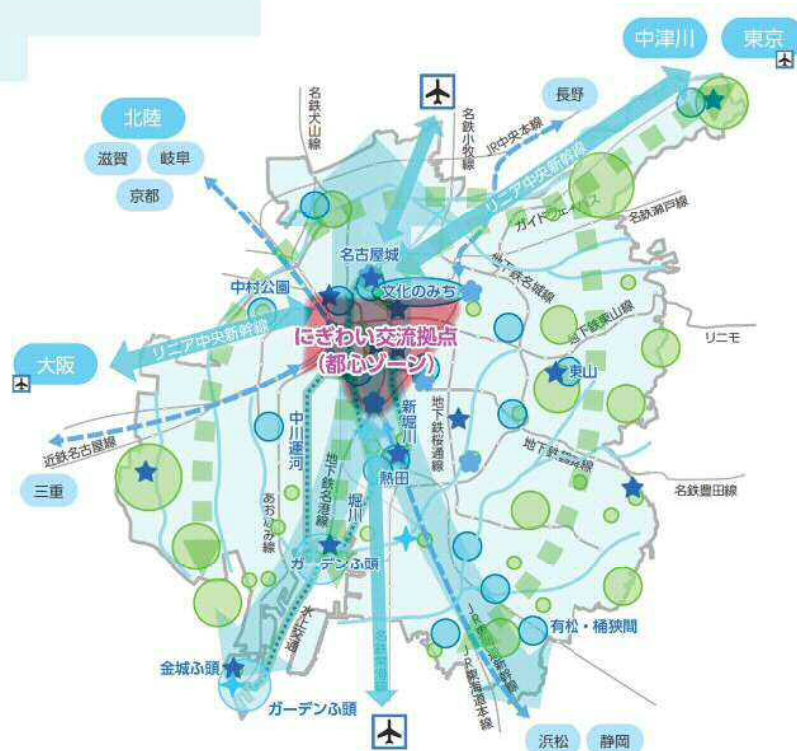
豊かな自然環境の維持保全

● 近隣拠点 … 一定の都市機能が集積し地域拠点を補完している地区

○ 鉄軌道 — 基幹バス路線等

都市づくり
の目標

02

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの
体験空間

●インバウンド増加やリニア中央新幹線開業、スーパー・メガリージョン形成を踏まえ、都心をにぎわい交流の拠点としながら、市内の魅力資源間の連携や広域的な観光連携を構築する都市構造とします。

●古くより親しまれてきた、名古屋城、熱田神宮などを核にした歴史軸や名古屋港への水辺連携軸などの魅力資源と、リニア中央新幹線開業に象徴される未来が融合した、にぎわい空間を形成します。

にぎわい交流拠点

- ★ 広域的な文化交流拠点
- ★ 主な観光・娯楽資源
- 公園・緑地等
- 河川・運河
- 環境軸
- 水辺連携軸
- 主な歴史資源
- 主な文化交流資源
- 水辺空間
- 鉄軌道

道路や河川、公園緑地などが連続し、安心・安全の確保や、にぎわい・交流の促進といった、緑や水が本来持つ機能が最大限発揮されるネットワーク。

水辺連携軸

都心と、ガーデンふ頭や金城ふ頭などのみなとの拠点を結ぶ堀川、中川運河、新堀川。各拠点や沿岸の魅力向上、水上交通の運航などにより、交流の活性化を担うネットワーク。

名古屋城を核とした魅力軸

歴史・文化魅力軸

名古屋城から熱田を介して有松に至るまで、名古屋の歴史や文化を現代に伝える貴重な場所として、文化・観光拠点としての魅力向上をはかる軸。

まちづくり・ものづくり魅力軸

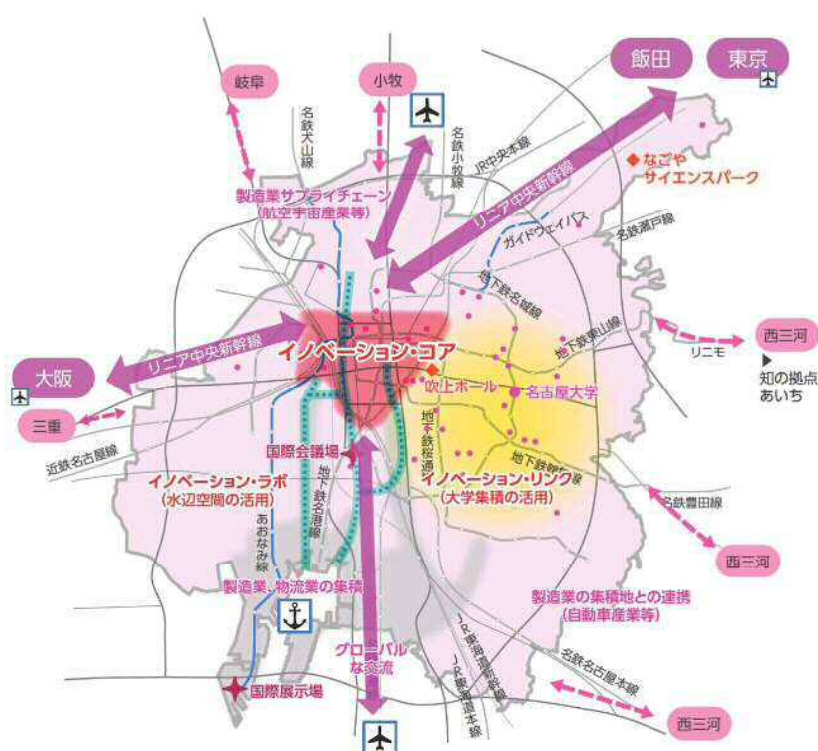
名古屋駅をはじめ堀川、中川運河及び名古屋港に至るまで、名古屋の大都市としてのイメージを牽引し、まちづくりと産業発展を支えてきた場所として、観光・にぎわい資源としての魅力向上をはかる軸。

広域連携軸

圏域に数多くある、風光明媚な自然環境や全国的な観光名所と名古屋をつなぐ広域的なネットワーク。特にリニア中央新幹線は、東京、大阪や、中間駅を擁する各都市と名古屋をつなぐ高速インフラとして、これまで以上の大交流を担う新たな交流の軸。

都市づくり
の目標

03

技術力と経済力で輝くグローバルな
創造空間

● 技術革新の進展などを踏まえ、高度な都市機能の集積地(イノベーション・コア)、水辺空間(イノベーション・ラボ)、大学の集積地(イノベーション・リンク)など、多様な地域特性を活かしてイノベーションを促進する都市構造とします。

● 国土の中心という地理性や陸海空の充実したインフラ、ものづくり産業の集積を活かし、グローバルな人材が行き交い、国際競争力を備えたイノベーションが沸き起こる空間を形成します。

イノベーション・コア(都心ゾーン)

圏域における消費・サービス、また、ものづくり産業のビジネスサポートの中心地である都心において、その機能を維持・向上しながら、高次の都市機能の導入や界限性の保全など多様な用途が複合的に集積した、新たな価値を生み出す中心地。

★ 広域的な産業交流拠点(地域拠点)

◆ その他の産業交流拠点

■ 製造業、物流業の集積地

● 大学・短期大学

— 主な広域道路

○ 鉄軌道

イノベーション・ラボ

中川運河をはじめとする水辺空間において、水辺という安らぎや高揚感を得られる特異な空間に魅せられた多様な人達が、集い出会い、新たな価値を生む場。比較的小規模で手ごるな土地・建物環境の中で、高感度なイノベーションの担い手が活躍する舞台。

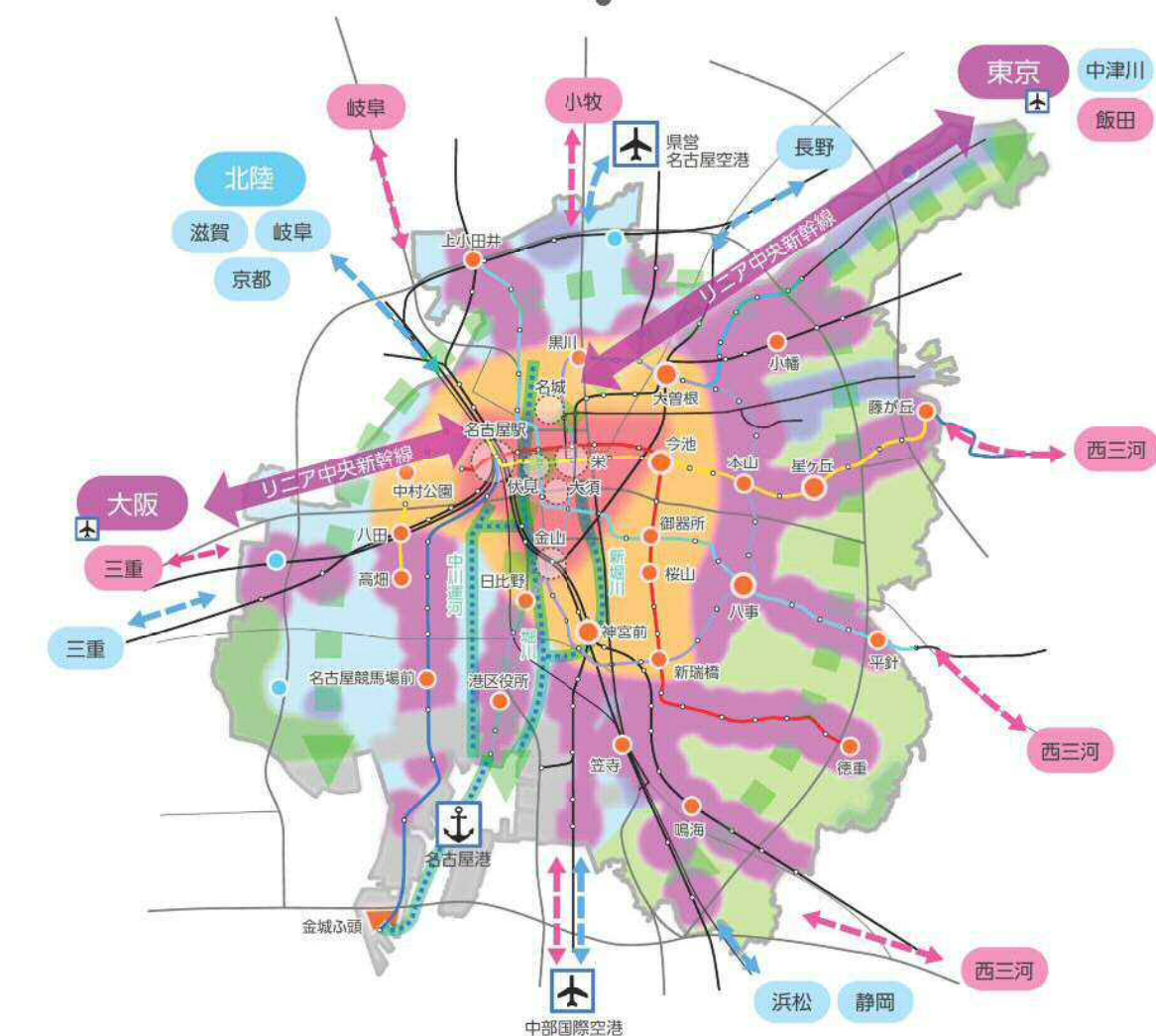
イノベーション・リンク

知的資源の源泉である大学の集積を活かした、新たな価値創造の場であり、大学や企業などのつながりが連鎖的に広がっていくエリア。

⇄ 広域連携軸

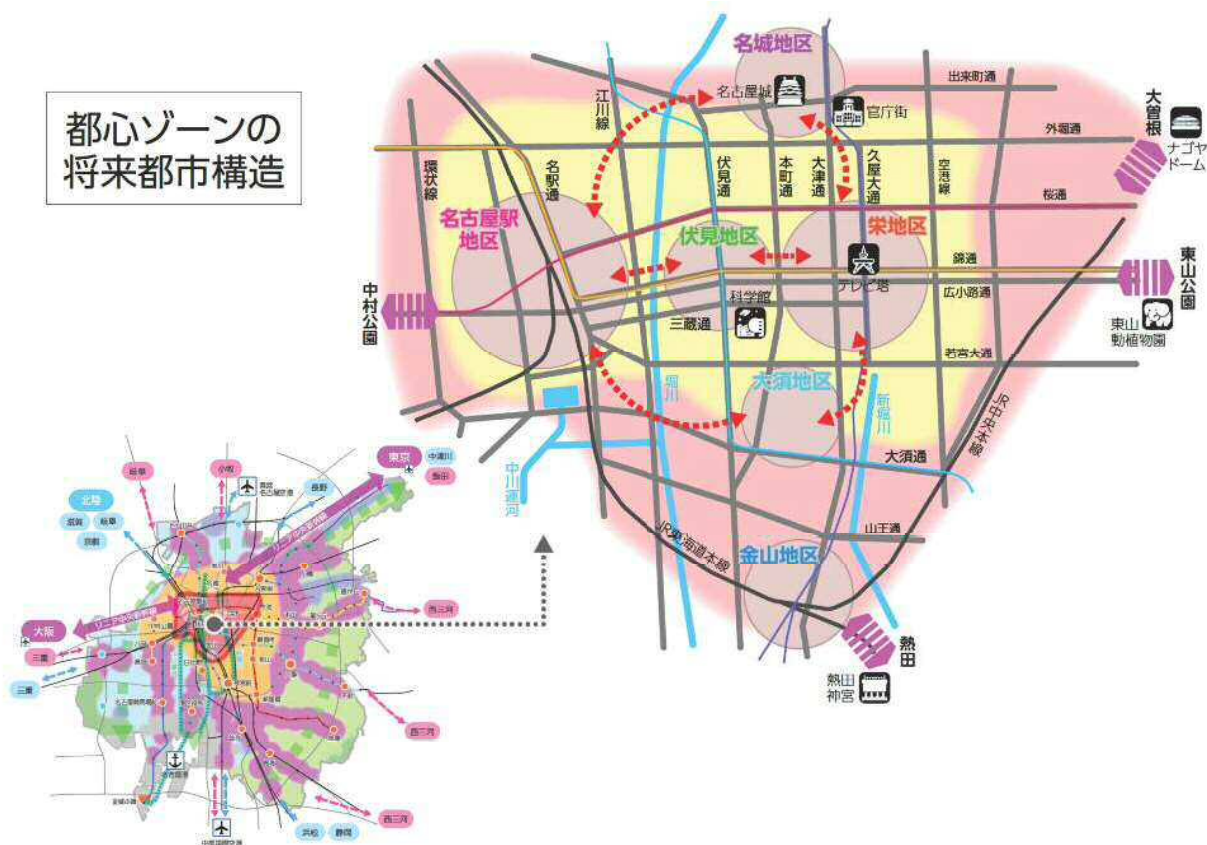
圏域に広がるものづくり産業のサプライチェーンを支える高速道路ネットワーク。
また、リニア中央新幹線は、名古屋のものづくり技術と東京、大阪の強みの融合によるイノベーションの創出を加速させる交流の軸。

各都市づくりの目標に対応した都市構造を重ね合わせ、将来都市構造とします。





都心ゾーンの 将来都市構造



都心部

都市機能が集積している名古屋駅・伏見・栄地区を中心として官庁街のある名城地区及び大須地区まで含む区域。

都心ゾーンにおける拠点

ある程度の広がりをもって都市機能が高度あるいは特徴的に集積したエリアとして、地域の特性を活かした名古屋の顔となるまちづくりをめざす地区。

都市軸

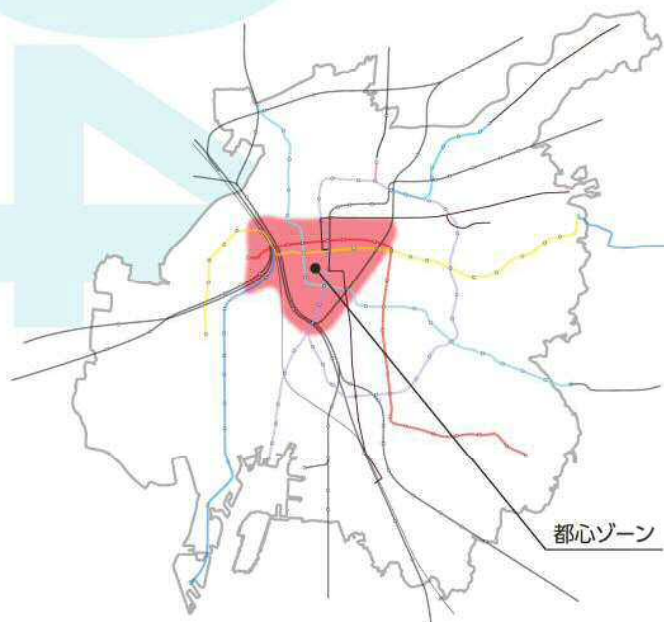
都市の骨格を形成する主要な幹線道路及び河川・運河。

拠点連携

各拠点を有機的に結びつけることにより、都心部内の回遊性や都市機能を相乗的に向上させるための拠点間の連携。

4-4 各ゾーンの将来イメージ

今後、各ゾーンにおいてめざすまちの姿を示します。



拠点市街地

都心ゾーン

魅力があふれにぎわう交流拠点

高次の都市機能が集積し、市民のみならず広域から人が集い、多様な交流活動が営まれる市街地です。

最も高次の都市機能が集積し、圏域の中心として国内外から人が集い、スーパー・メガリージョンのセンターとなる圏域の中核としての役割を大きく担います。

》 まちづくりの方針

▶リニア中央新幹線の開業やアジア競技大会の開催といった機会を捉え、環境に配慮され、文化芸術を活かしたまちづくりや豊かな公共空間を活用した快適性の向上をはかります。

▶また、圏域の発展を牽引していくために、産業競争力の強化につながる産業交流機能の強化や外国人にとっても訪れやすく活動しやすい環境の整備をはかり、都市の国際競争力を高めます。



※概ね20年先のイメージです

都心ゾーン

リニア中央新幹線が開通する名古屋駅を擁する都心において、スーパー・メガリージョンのセンターとなる圏域の中核としての広域交流機能を強化

- ▼国内外からの投資が活況で、リニア中央新幹線が乗り入れ圏域の玄関口である名古屋駅をはじめ、多くの人が様々な目的を持って来訪しています。また、ユニバーサルデザインで整備された魅力的な商業施設や文化施設、宿泊施設が充実しています。
- ▼大学やベンチャー・スタートアップ企業などのオフィス、インキュベーション施設、コワーキングスペースなど、高度でクリエイティブな人材の活動拠点や主体間の交流、見本市や学会の開催などのための空間が充実しています。また、空きビルなどがオフィスや工房に再生し、制限性のある空間が形成されています。
- ▼職住近接や高い利便性に魅力を感じる世帯が住む高密度な中高層住宅が立地し、低層部の商業・業務機能と調和のとれた都心居住の中で、多言語に対応した医療、福祉施設などの都市機能も集積しています。
- ▼にぎわいが立体的に連続する空間を人々が行き交い、また、高層ビルが立ち並び中でも、貴重な水辺空間や個性的・歴史的な境界が残る地区が魅力を発信するなど、多様性のあるにぎわいが展開しています。
- ▼通過交通が排除され、パーソナルモビリティやシェアサイクルが行き交い、ゆとりのある歩道やにぎわい空間の創出などによりウォーカブルなまちが実現しています。また、デザイン性に優れた路面公共交通がまちをシームレスにつなぎ、回遊性やにぎわいが高まり、移動そのものが楽しい空間を形成しています。
- ▼多数の乗降客数を有する駅周辺では、治水対策が進むとともに、帰宅困難者のための避難場所が確保されています。また、業務継続を担保する自立分散型のエネルギーシステムが導入されています。
- ▼高質な緑やオープンスペースの中で、企業などによるコミュニティ活動やイベント活動などが展開しています。また、クリエイティブな感性を刺激するとともにビジネスマッチングなどの場としても利用されています。また、企業や地元住民により維持管理、活用され、常に新しい魅力が発信されています。
- ▼低炭素でエネルギー効率の高いビルが立地し、IoTなどの技術が使われたエネルギーの面的利用が拡大しています。また、グリーンインフラの充実などにより世界水準の環境性能が実現しています。
- ▼シンボリックな並木、建物、広告・案内サインなどのデザインが、ゆとりと風格のある都市景観を演出しています。エリアマネジメントで、民間の創意工夫によるまちなみが実現しています。

》 主な施策の方向性

〔5章 施策の展開〕の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

●都心における都市機能の誘導・強化	A-1-1	●災害に強いビジネス環境の整備	C-4-3
●都心における質の高い居住環境の形成	A-2-1	●多様な公共空間における緑・水、にぎわいの創出	D-2-2
●都心等における機能誘導と土地の高度利用	A-5-2	●都心部への自動車の集中緩和	D-3-2
●まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進	B-2-1	●省エネルギーの徹底、エネルギーの利用効率の向上	D-3-9
●名古屋駅周辺における交通機能の強化	B-2-2	●個性的な魅力空間の創出	F-3-1
●歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境の確保	B-3-2	●誰もが観光を満喫できる受入環境の整備	F-3-4
●帰宅困難者の支援体制の確保	C-4-2	●多様性のある土地利用の誘導	G-1-1



拠点市街地

地域拠点

都心ゾーンを補完する、
市内各地域の中心地

主要な交通結節点等において、都心に次いで都市機能が集積する、市内各地域の中心となる市街地です。近隣都市からも人々が訪れ、都心ゾーンを補完する役割を担います。

》 まちづくりの方針

▶ にぎわいと生活利便性を高める施設の集積をはかり、周辺住民が訪れにぎわいのあるまちなみが駅を中心に広がるなど、快適なまちなかライフを過ごすことができる身近な拠点づくりをめざします。



※概ね20年先のイメージです

地域拠点

市内の主要な交通結節点等において、主に市民の生活利便性や豊かな都市活動を支えるための機能を集約

- ▼各拠点が支える後背圏の性格に応じた役割を担いながら、商業、文化施設や、医療・福祉・子育て施設などが充実しています。
- ▼公共交通の利便性などを活かした中高層住宅が立地し、高密度な市街地を形成しています。
- ▼公共交通機関を日常移動手段とし、高い生活利便性の中、多様なライフスタイル・ライフステージの人達が、歩いて暮らせる日常生活を送っており、非日常を味わうための都心への移動も快適です。
- ▼パーソナルモビリティやシェアサイクルなどにより回遊性が向上しています。また、ゆとりある歩道やにぎわい空間の創出などにより歩行者中心の道路空間が形成され、ウォーカブルなまちが実現しています。
- ▼休日に公共交通を使って訪れ、ショッピングや文化・レジャー活動、生涯学習、フリーマーケットなどの自ら参加できるイベントなど、駅周辺に集まる各所のコンテンツを回遊しています。
- ▼発災時、業務継続を担保する自立分散型のエネルギーシステムが導入されています。
- ▼高質な緑やオープンスペースの中で、企業などによるコミュニティ活動やイベント活動などが展開しています。企業や地元住民により維持管理や活用がなされ、常に新しい魅力が発信されています。
- ▼利用者が多く他地域からの集客力が高い今池、大曽根、神宮前、星ヶ丘、八事においては、その強みを活かしたまちづくりが展開しています。

》 主な施策の方向性

【5章 施策の展開】の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

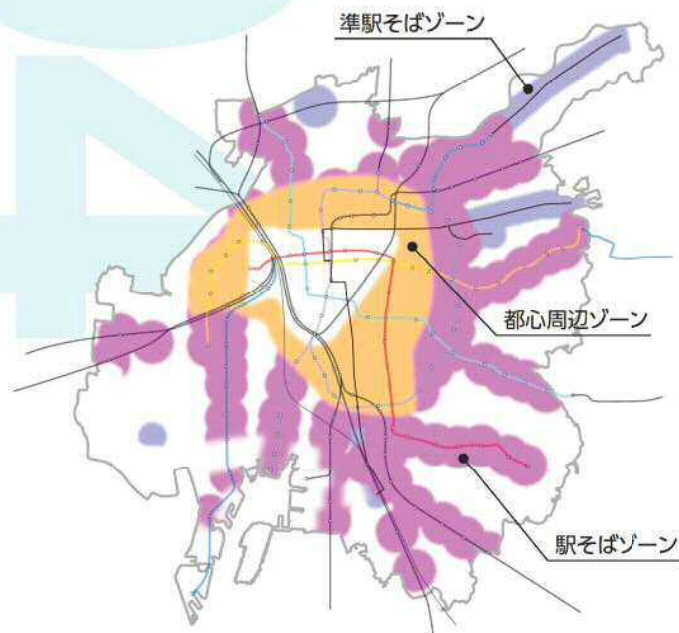
- | | | | |
|-------------------------|-------|---------------------------|-------|
| ●快適で利便性の高い生活環境の形成 | A-1-2 | ●歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境の確保 | B-3-2 |
| ●公共交通による利便性を活かした居住環境の形成 | A-2-2 | ●災害に強いビジネス環境の整備 | C-4-3 |
| ●都心等における機能誘導と土地の高度利用 | A-5-2 | ●多様な公共空間における緑・水、にぎわいの創出 | D-2-2 |
| ●まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進 | B-2-1 | ●利便性の高い生活圏の形成 | E-4-1 |

多数の駅利用者、多機能を有する地域拠点について

以下の地域拠点については、周辺住民のみならず、特に多くの人々が目的を持って集まる場所であり、そのポテンシャルを活かし、魅力や都市機能の高度化をはかります。

基準：駅乗車人員が15,000人/日以上 かつ 帰宅目的の利用が30%未満

- | | |
|------------|--|
| 今池 | 商業、業務機能が集積し、利便性の高い拠点を形成しています。また、娯楽施設や文化施設なども立地し、個性的な魅力を発信しています。 |
| 大曽根 | JR、名鉄、地下鉄、ゆとりーとラインが乗り入れる交通結節点として、高い利便性を有します。また、周辺には徳川園やナゴヤドームなど集客施設が多く立地しています。 |
| 神宮前 | 中部国際空港と直結するなど広域的な交通結節点として利便性の高い拠点を形成しています。周辺には熱田神宮があり、多くの来訪者が訪れるとともに、駅前の再開発も進んでいます。 |
| 星ヶ丘 | 駅前にバスターミナルを有し、また大型商業施設が立地するとともに、多くの大学や高校が集積しています。また、駅の西側には東山動植物園が広がり、緑豊かなまちなみを形成しています。 |
| 八事 | 周辺に多くの大学が立地し、市内を代表する文教地区です。駅利用者における学生の割合が高く、若者を対象とした施設が立地しています。 |



駅そば市街地

都心周辺ゾーン
駅そばゾーン
準駅そばゾーン

快適で利便性の高い 居住環境を有する市街地

地下鉄をはじめとした公共交通の駅そばにおいて、利便性が高く歩いて暮らせる居住環境を有する市街地です。

駅そば市街地やその周辺の郊外市街地の住民のための生活利便施設が集積し、若者や高齢者をはじめ利便性を求める居住ニーズに対応します。

》 まちづくりの方針

- ▶ 利便性が高く、多くの住宅ストックを有する鉄道駅周辺を中心に、良質な都市基盤を活かした既存住宅ストックや生活利便施設の有効活用、機能更新を重点的にはかります。それによって、就業世代や子育て世代、高齢者、障害者など様々な人々にとって生活しやすい、歩いて暮らせるまちづくりを進めます。
- ▶ また、人口減少や高齢化の著しい区域では、居住地の持続性を高めるために、世代間バランスを考慮し、特に若い世代の新規の定住促進などをはかります。
- ▶ 災害のおそれがある区域では、災害リスクを踏まえた居住や土地利用をはかり、災害が生じた際における被害低減につなげるなど、安全・安心なまちづくりを進めます。



※概ね20年先のイメージです

都心周辺ゾーン

都心ゾーン周辺の古くに整備された市街地において、都心との近傍性などの特性を活かした再生を推進

- ▼医療・福祉・子育て施設などの都市機能が充実しています。また、ストックの再生が進み、単身者向け、夫婦・家族向け、高齢者向け、外国人向け、オフィス併設、シェアハウスなど、アフォーダブルで多様な住まいが立地するなど、土地区画整理などにより形成された良質な住宅環境が維持されています。
- ▼中層住宅や商業・サービス・事務所が立地し中密度な市街地が形成されています。
- ▼特に駅直近では公共交通機関を日常移動手段とし、都心に隣接する高い利便性を活かした、多様な暮らし方、働き方が実現しています。
- ▼歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実しています。
- ▼建物の耐震化や狭あい道路の改善などにより防災性が向上するとともに、歴史性や界限性を残した市街地として再生しています。
- ▼市民の憩いや高齢者の健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観が形成され、防災空間としても活用されています。
- ▼市街地の再生が進む中で、低未利用な土地が緑地として再生するなどグリーンインフラが充実するとともに、省エネ性や敷地内緑化など地球環境にも配慮した高質なストックが形成されています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

- | | | | |
|---------------------------|-------|---------------|-------|
| ●公共交通による利便性を活かした居住環境の形成 | A-2-2 | ●公園、街路樹等の維持管理 | D-1-3 |
| ●まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進 | B-2-1 | ●民有地における緑の創出 | D-2-3 |
| ●歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境の確保 | B-3-2 | ●住宅・建築物の低炭素化 | D-3-5 |
| ●既成市街地の再生による防災性の向上 | C-2-3 | ●住宅ストックの改善・更新 | E-3-1 |
| ●木造住宅密集地域等における防災性の向上 | C-2-4 | | |

駅そばゾーン

駅を中心とした生活圏において、駅周辺やその後背圏の住民の日常生活を支える都市機能を向上

- ▼医療・福祉・子育て施設などの都市機能が充実しています。また、高齢者や子育て世帯など幅広い世帯に選ばれ、住み継がれる住環境を形成しています。
- ▼「西部郊外ゾーン」を后背圏とするエリアの駅直近においては、商業・業務機能や中層の集合住宅が、駅の周辺には、中低層の集合住宅や戸建て住宅が立地し、中密度な市街地を形成しています。
- ▼「東部郊外ゾーン」を后背圏とするエリアの駅直近においては、利便性の高い生活サービス機能が集積し、中高層住宅や中層住宅が立地しています。
- ▼日常生活機能の集積による利便性と、通勤・通学や都心へのアクセスの利便性が確保されています。
- ▼歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実しています。
- ▼都市機能が充実する中でも、歴史的な資源が保全され、その地の旧来からの魅力が醸成されています。
- ▼市民の憩いや健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観が形成され、防災空間としても活用されています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

- | | | | |
|---------------------------|-------|-----------------|-------|
| ●公共交通による利便性を活かした居住環境の形成 | A-2-2 | ●公園、街路樹等の維持管理 | D-1-3 |
| ●まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進 | B-2-1 | ●安定した居住継続の促進 | E-2-2 |
| ●歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境の確保 | B-3-2 | ●身近な歴史に親しむ界隈づくり | F-2-3 |
| ●既成市街地の再生による防災性の向上 | C-2-3 | | |

準駅そばゾーン

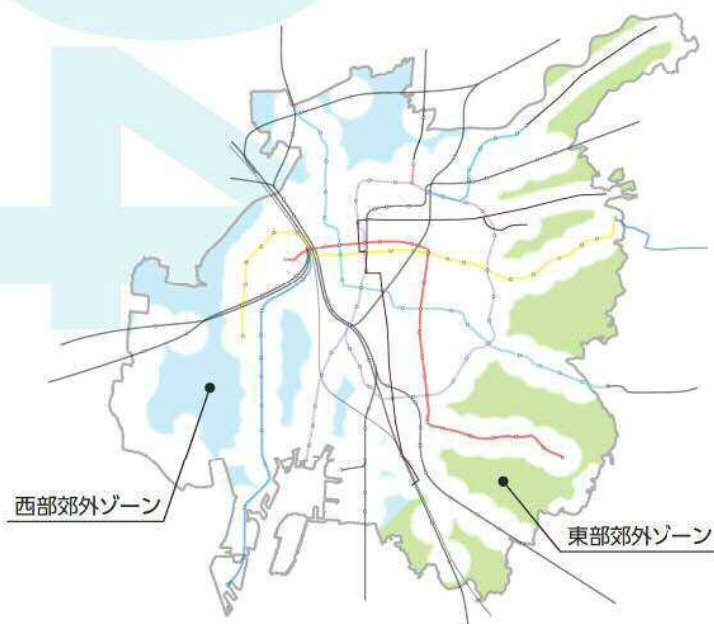
基幹的なバス路線等を中心とした生活圏において、利便性の高い住宅地としての機能を維持

- ▼高齢者や子育て世帯など幅広い世帯に選ばれ、住み継がれる住環境を形成しています。
- ▼基幹的なバス路線沿道等では、周辺の居住者が利用する生活利便施設や中層住宅が立地しています。また、それ以外では、中低層の集合住宅や戸建て住宅が調和し中密度な市街地を形成しています。
- ▼通勤・通学や都心へのアクセス利便性が確保されています。
- ▼歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実しています。
- ▼市民の憩いや健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観が形成され、防災空間としても活用されています。

》 主な施策の方向性

〔5章 施策の展開〕の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

- | | | | |
|---------------------------|-------|---------------------|-------|
| ●公共交通による利便性を活かした居住環境の形成 | A-2-2 | ●公園、街路樹等の維持管理 | D-1-3 |
| ●まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進 | B-2-1 | ●郊外地における良好な住宅市街地の形成 | E-4-3 |
| ●歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境の確保 | B-3-2 | | |



郊外市街地

西部郊外ゾーン
東部郊外ゾーンゆとりとうるおいのある
居住環境を有する市街地

郊外部において、空間的なゆとりと自然豊かなうるおいのある居住環境を有する市街地です。

人口減少が進む中でも良質で持続的な居住環境が維持され、ファミリー層を中心に多様な居住ニーズに対応します。

また、充実した道路網により近隣市町村と都市機能を相互に補完します。

》 まちづくりの方針

- ▶ 戸建て居住ニーズへの対応や世代間バランスのとれた地域コミュニティの維持のため、ゆとりとうるおいのある居住環境の持続をはかります。
- ▶ また、職住が近接し、アフォーダブルなものも含め様々な住まい方が可能なまちづくりを進めます。
- ▶ 今後の新たな宅地開発については、これまでの人口増加に対応する開発から、緑を活かしたゆとりとうるおいのある開発へ誘導していくとともに、緑地を保全し、過度な市街地拡大の抑制をはかります。
- ▶ 災害のおそれがある区域では、災害リスクを踏まえた居住や土地利用をはかり、災害が生じた際における被害低減につなげるなど、安全・安心なまちづくりを進めます。

※概ね20年先のイメージです

西部郊外ゾーン

多様な土地利用が進む西部において、職住が近接し多様な機能が調和した生活環境を形成

- ▼住宅地が広がる中で業務系の建物も立地し、職住が近接し多様な機能が調和しています。空き家での起業や空き地での家庭菜園など、ストックの再生によって様々なことを実現できる多様性に富んだ生活環境が形成されています。
- ▼災害リスクを踏まえた居住や土地利用により、まちの防災性が向上しています。
- ▼農地や水辺空間と一体となったゆとりある緑地空間が充実しています。
- ▼鉄道駅等へ接続する公共交通の持続性や利便性が確保されています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

- | | | | |
|-----------------------|-------|-----------|-------------|
| ●良好な居住環境の維持・形成 | A-2-3 | ●津波対策の推進 | C-3-4 |
| ●住工複合地における工業・物流系機能の維持 | A-3-2 | ●水辺の魅力向上 | D-1-2 F-3-3 |
| ●高潮対策の推進 | C-3-3 | ●農地の保全・活用 | D-2-5 |

東部郊外ゾーン

緑豊かで良好な風致を有する東部丘陵地において、ゆとりとうるおいのある生活環境を形成

- ▼戸建てと低層の集合住宅からなるファミリー層を中心とした良好な住宅地で、自然環境と共存するゆとりとうるおいのある環境が形成されています。
- ▼宅地の耐震化等がはかられ、安全な居住環境が形成されています。
- ▼樹林地やため池など里山の風景が残る豊かな公園や緑地が充実するとともに、都市農地が多面的に利活用されています。
- ▼鉄道駅等へ接続する公共交通の持続性や利便性が確保されています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

- | | | | |
|----------------------|-------|---------------------|-------|
| ●良好な居住環境の維持・形成 | A-2-3 | ●樹林地、草地及び水辺地の保全・健全化 | D-2-4 |
| ●地盤被害の軽減、大規模盛土造成地の調査 | C-2-5 | ●農地の保全・活用 | D-2-5 |



その他のゾーン

港湾産業ゾーン
自然共生ゾーン

港湾産業ゾーン

名古屋港を擁する臨海部を中心に、集積した製造業や物流施設の操業環境の保全や機能の更新・高度化を推進

▼製造業や物流施設などの集積が進み、経済活性化に寄与しています。

▼名古屋港において、国際・国内海上輸送機能の強化や物流の効率化やアクセスの向上などが実現しています。

▼津波、高潮などから守る防護機能の強化、施設の更新・強化により防災性が向上しています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

●工業・物流系機能の更新や高度化の促進

A-3-1

G-2-1

●港の安全性・信頼性の向上

B-4-3

●国際産業戦略港湾の実現に向けた取組の強化

B-4-1

G-3-2

(名古屋市周辺も含めた広域的なイメージ)

※概ね20年先のイメージです

自然共生ゾーン

市街化調整区域において、現在の豊かな自然環境の維持保全を基本としながら、都市基盤の整備状況に応じた土地利用を展開

- ▼ 優良な農業生産基盤であるとともに、優れた自然風景や田園的風景、生物の生息・生育環境を有する豊かな自然環境が形成されています。また、都市にうるおいや快適性といった魅力をもたらし、生物多様性も確保されています。
- ▼ 農作物の直売所やレストラン、農業体験など農地が多面的に利活用されています。

- ▼ 高速道路のインターチェンジ周辺などでは、周辺の自然環境と調和しながら適切な都市機能が導入されています。

》 主な施策の方向性

「5章 施策の展開」の掲載事項の内、ゾーンの将来イメージに特に関連する事項

● 自然環境等の維持・保全と市街地拡大の抑制 **A-4-1**

● 風土にあった自然や生きものの回復 **D-2-7**

● 農地の保全・活用 **D-2-5**



※概ね20年先のイメージです

4-5 各ゾーンの密度イメージ

拠点市街地、駅そば市街地、郊外市街地の人口密度(定住人口)は、長期的に見通すと(令和22(2040)年頃)、下図のように市域の広範にわたって低下していくことが予測されます。

既に都市基盤が充実している地域拠点や駅そば市街地の3つのゾーンにおいては、現状の人口密度の維持をはかっていきます。

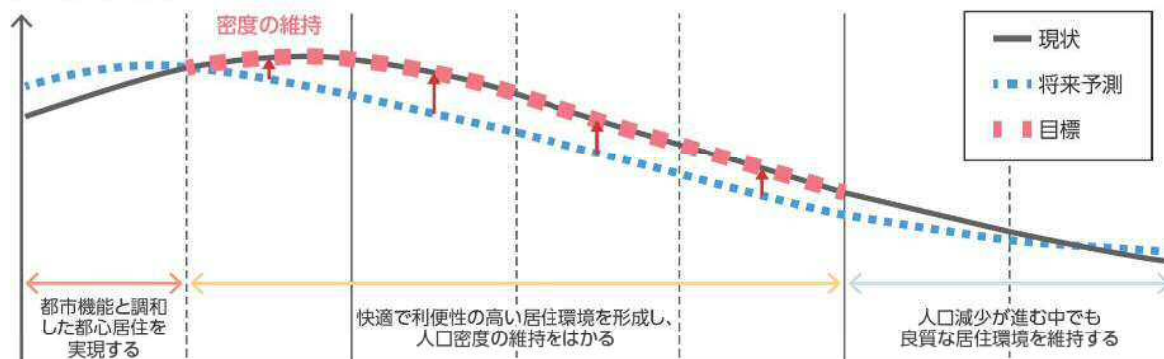
土地利用密度では、特に高度な都市機能を誘導すべき都心ゾーンや地域拠点において、さらなる高度利用により、土地利用密度を高めていきます。

■将来の人口密度イメージ(高さ=密度の大きさ)

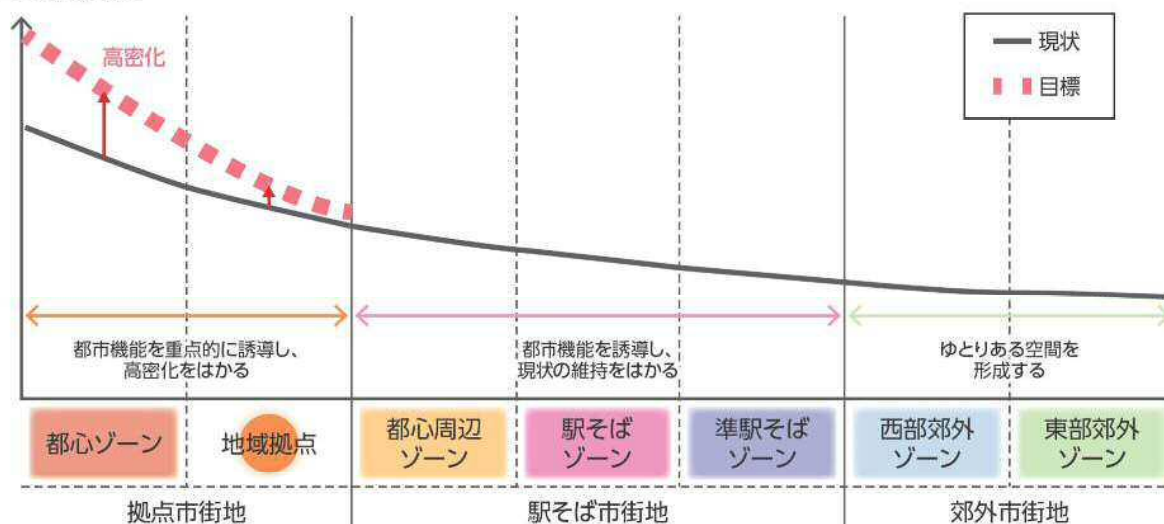


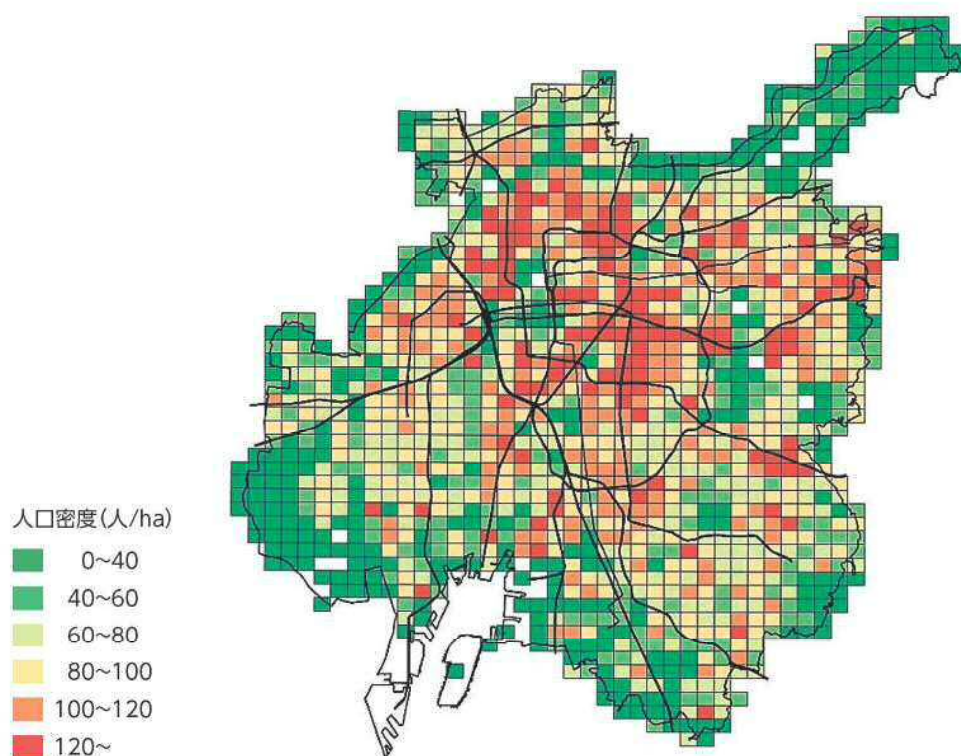
- | | | |
|----------|---------|---------|
| (拠点市街地) | 都心ゾーン | 地域拠点 |
| (駅そば市街地) | 都心周辺ゾーン | 駅そばゾーン |
| (郊外市街地) | 西部郊外ゾーン | 準駅そばゾーン |
| | | 東部郊外ゾーン |

■人口密度(定住人口)



■土地利用密度

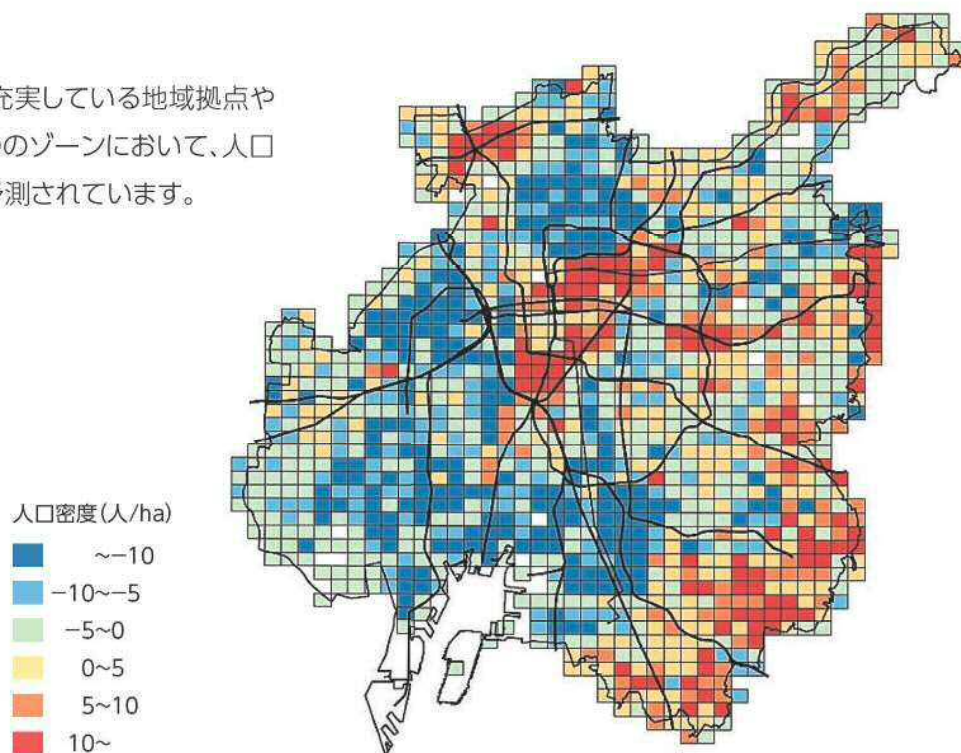




出典) 国土数値情報をもとに名古屋市作成

平成27(2015)年時点の人口密度

既に都市基盤が充実している地域拠点や駅そば市街地の3つのゾーンにおいて、人口減少が進むことが予測されています。



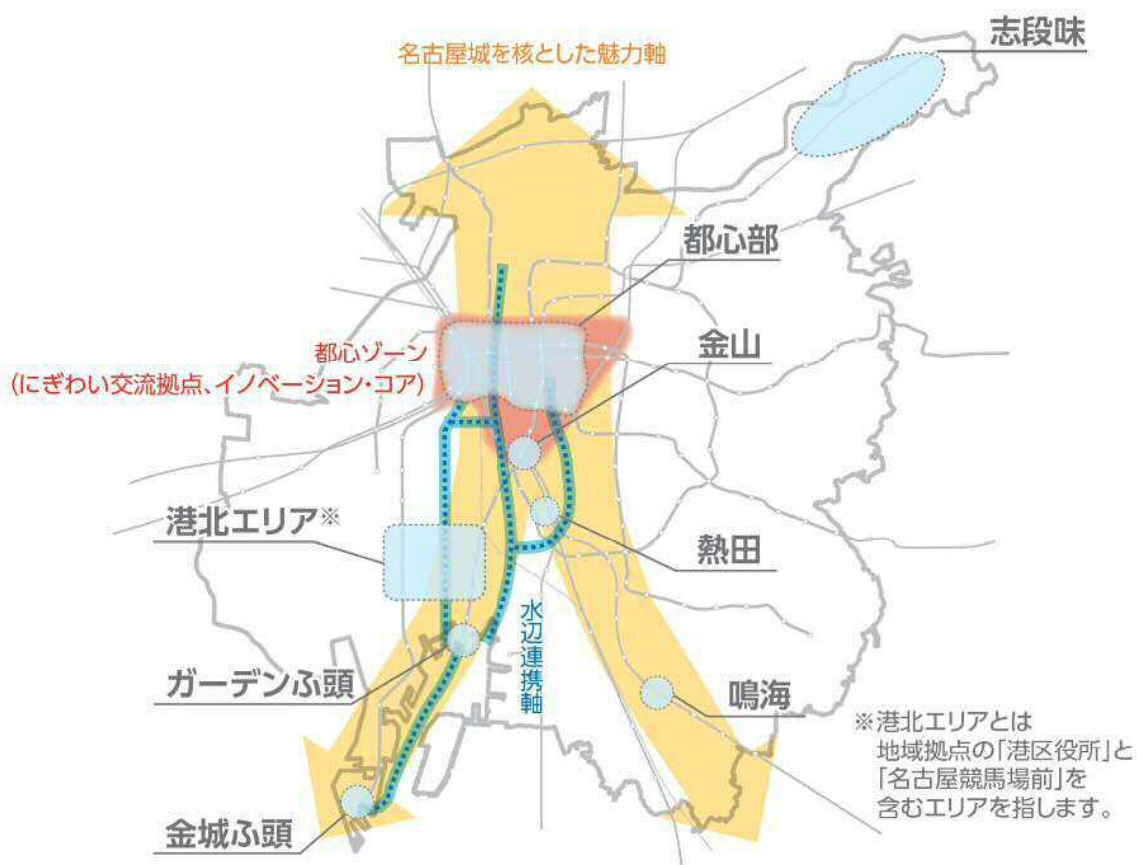
出典) 国土数値情報をもとに名古屋市作成

平成27(2015)年から令和22(2040)年までの人口増減

4-6 重点的にまちづくりを展開する地域

将来都市構造や各ゾーンの将来イメージを実現するために、次の5つの視点から導き出した都市機能の強化をはかる地域の内、特に重点的にまちづくりを展開する地域を示します。

- リニア中央新幹線の開業やアジア競技大会の開催といった機会を捉えた都市機能の強化が必要な地域
- にぎわいの創出やイノベーションの促進のため、広域交流機能の強化と高次機能の集積が必要な地域
- さらなる交流の活性化をはかるため、名古屋城を核とした魅力軸や水辺連携軸の魅力の向上や資源間の連携が必要な地域
- 駅周辺やその後背圏の人々の豊かな日常生活や都市活動を支えるため、基盤整備が必要な地域
- 基幹的なバス路線の沿道において、ゆとりとうるおいのあるまちづくりを進めるため、基盤整備が必要な地域



都心部

都心ゾーンの中でも特に多様で高度な都市機能が集積する都心部において、リニアインパクトを最大化し、世界に冠たる「NAGOYA」の象徴たる都市空間を形成します。

- 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備
- 訪れたいくなるワクワク感のあるまちを実現する都市魅力の向上
- 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

拠点のまちづくり

名古屋駅地区

～未来を体感し創造する
交流のターミナル～



- ・約7,000万人交流圏の交通拠点の形成
- ・多様な人材の交流を促進する国際的・広域的な拠点形成
- ・地域資源を活かした多彩でめぐりたくなるまちの形成

名城地区

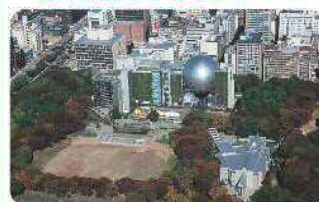
～歴史と文化に
彩られた名古屋のまちづくりの礎～

- ・歴史・文化資産の活用による奥行きと多様性のあるまちづくり
- ・拠点間の連携強化による都市の回遊性の向上



伏見地区

～職・住・遊のプラットフォーム～



- ・芸術的・文化的な雰囲気を活かしたまちづくり
- ・様々な都市機能と調和した都心居住の実現
- ・意欲ある起業家の創業の促進と業務機能集積の発展

栄地区 ～訪れる人々が心を
解き放つ都心のオアシス～



- ・エリアのにぎわいを都心全体に広げる公共空間の再生・活用
- ・様々な都市機能の導入による多様な人材の集まる環境整備
- ・多様性のあるまちづくりを進め名古屋らしい都市魅力の向上

大須地区 ～下町情緒とポップが交錯する庶民文化の象徴～

- ・商店街や寺社の雰囲気を活かした多様性と彩りの創出
- ・「ポップカルチャーの聖地ナゴヤ」としてのまちの雰囲気の醸成



都市軸のまちづくり

- ・幹線道路と沿道のまちづくり、河川・運河沿岸のまちづくりにより、にぎわいを都心部内に展開



拠点連携と都心界隈のまちづくり

- ・各拠点のもつ機能を有機的に結びつけることにより、都心部内の回遊性を高めるとともに、都心部全体の都市機能を相乗的に向上
- ・歴史性や下町の風情など、界隈における独自の個性・魅力の保全・開拓により、都市の多様性を向上



金山

名古屋駅に次ぐ交通拠点としての機能に加え、商業・業務機能、文化・芸術機能、防災機能などを兼ね備える便利で国際的な交流拠点を形成します。

- これまで培われてきたにぎわいとうるおいの継承とさらなる発展
- 地域の特徴である文化芸術や創造拠点としての取り組みを、個性的で創造的なまちづくりとして展開
- 防災力の強化による地域のポテンシャルの向上
- 交通結節点としての機能強化による拠点性の向上

**熱田**

熱田神宮を中心に長い歴史の中で発展してきた熱田において、市民の誇りとなり、ホスピタリティを強化するような名古屋を代表する名所づくりを推進します。

- 尾張名古屋のルーツを物語る拠点として発展
- 複数の鉄道駅が近接する特性を活かし、熱田神宮の門前エリアにふさわしい観光拠点を創出

**港北エリア**

アジア競技大会の選手村整備を契機に、中川運河、公園、交通基盤などの地域資源を際立たせることにより、にぎわいと新たな地域ブランドの形成に向けたまちづくりを推進します。

- 名古屋競馬場跡地での質の高い民間開発による地域イメージの転換
- 交通利便性・回遊性の向上、水・緑と共生した生活環境の形成
- 次世代産業の振興、世界に開かれたビジネス環境の形成
- 職住近接によるゆとりある生活の実現、地域ぐるみの防災対策の実践

**ガーデンふ頭**

親水性の高い施設を最大限活用しながら再開発を進めることにより、隣接する地区のまちづくりとあわせて、さらなる港まちの魅力を創出します。

- 名古屋の名所として、市民に親しまれ、多様な人と情報が交流する世界につながる交流拠点の形成
- 隣接地区と一体となって、にぎわいやくつろぎのある拠点を形成



金城ふ頭

圏域のものづくりを支える物流機能と調和をはかりつつ、コンベンション機能やアミューズメント施設を備えた、広域からも人々が訪れるような拠点を形成します。

- 多様な都市機能と高い回遊性を有する、にぎわいと魅力のある名古屋の新名所の創出
- コンベンション機能のさらなる強化による世界の技術・情報・人々が交流する拠点の形成



出典)名古屋港管理組合より提供

鳴海

駅周辺や後背圏を支える地域拠点としての基盤整備と歴史的資源の活用を推進します。

- 駅周辺の土地の高度利用や駅前広場を活かした拠点性の向上
- 旧東海道の宿場町としての歴史的資源の活用による地域魅力の向上

**志段味**

準駅そばゾーンの高い利便性と、ゆとりやうるおいが調和した良好な居住環境を形成するとともに、地域資源を活用した魅力向上を推進します。

- 空間的ゆとりと豊かな自然があり、交通基盤が整備された生活しやすい居住環境の形成
- 古墳などの歴史的資源や豊かな自然を活かした地域魅力の向上



また、南陽をはじめ、大曾根、筒井・葵、大高等、利便性の高い生活圏の形成や居住環境の改善のため、土地区画整理事業等を推進している地域においても、引き続き、地域の特性に応じ都市機能の導入や宅地の利用増進、都市機能の整備を進めます。

地域環境の変化に柔軟に対応してまちづくりを展開する地域

次のような地域環境の変化が生じた地域についても、関係者間の連携・調整の上で、重点的にまちづくりを展開する地域とします。

- ▶民有地や公有地における土地利用転換など、新たなまちづくりの契機を有する地域
- ▶地域による主体的なまちづくりとの連携が、行政課題の解決につながると認められる地域